



梅雨明けはもう少し先の話ですが、梅雨の晴れ間に垣間見る陽ざしは、真夏を感じさせるこの頃です。水分補給と紫外線対策は普段から心がけていきましょう。

今回は肌の露出が増える夏に気をつけたい虫の話です。

触ると炎症「やけど虫」に注意！

やけど虫の正式名称は「アオバアリガタハネカクシ」。体長6～7mmで細く小さい。形はアリに似ており、頭や尾の先端部、胸の一部などが黒、他はオレンジ色をしています。川岸や田畑、草むらなどの湿った地表に住んでいます。

やけど虫は、梅雨の時期から夏にかけて最も増え、体液に触れるとやけどのときのように皮膚に水ぶくれなどができて痛みなどが生じます。

《やけど虫への主な対処法》

- ・ 体に付いたときはタオルなどで拭い、潰さない。そっと吹き飛ばす。
- ・ 体液が付いた場合はなるべく早く洗い流す。
- ・ 川岸や田畑などに行く場合は虫除けスプレーを。
- ・ 発疹や水ぶくれなどが出たら皮膚科を、体液が目に入った場合は眼科を受診する。

これからの時期、子どもも大人もアウトドアで過ごす機会が増えます。やけど虫のほかにもガの幼虫である毛虫が肌に触れて、皮膚炎が起こるケースもあります。半袖、半ズボンなどで散歩や運動などをする際は、虫除けスプレーを活用しましょう。もし虫のトラブルが起きたら、早めに皮膚科などを受診し、症状を悪化させないことが重要です。

